

DXによる競争力強化

世界情勢の不安定化や地政学リスクの高まりにより、事業環境の不確実性が増す中、当社はDXを単なる一過性の「取り組み」ではなく、持続的な変革と成長を生み出し続けるための「経営の中核機能」として位置付けています。

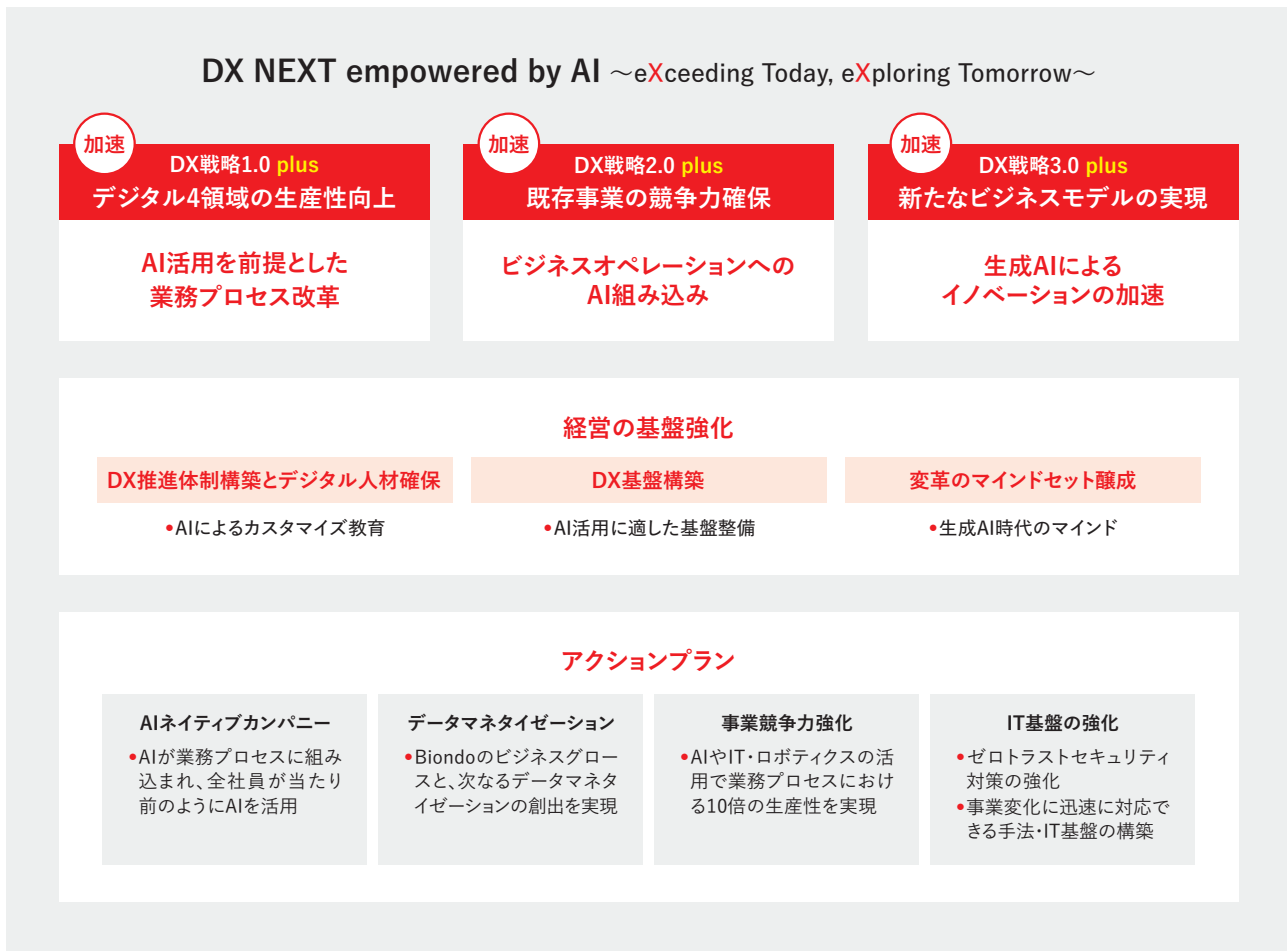
新たなDX VISIONと戦略

DX NEXT empowered by AI ～eXceeding Today, eXploring Tomorrow～

中期経営計画（2025～2027年）の始動に合わせ、AI活用を新たな基軸に据えたDXビジョン「DX NEXT empowered by AI ～eXceeding Today, eXploring Tomorrow～」を掲げました。このDXビジョンは、過去のDX戦略で積み上げた基盤の上に、生成AI等の技術を用いて、単なる業務改善に留まらない「本質的なTransformation（変革）」を目指すものです。

2025年は、生成AIを含むAI技術の急速な進展を取り込みながら、AI活用を全社の共通基盤として整備し、現場の業務変革と価値創出のスピードを着実に高めてきました。2026年は、これまで得た知見と実装成果を起点として、AIを各DX戦略へさらに深く組み込み、個別最適に留まらない全社横断的な変革へと発展させます。現場の改善から経営・事業の変革までを一体で推進することで、不確実な環境下でも新成長戦略を支える経営基盤の高度化、競争力の強化、そして新たな価値創造を一段と加速させていきます。

DX戦略の全体像

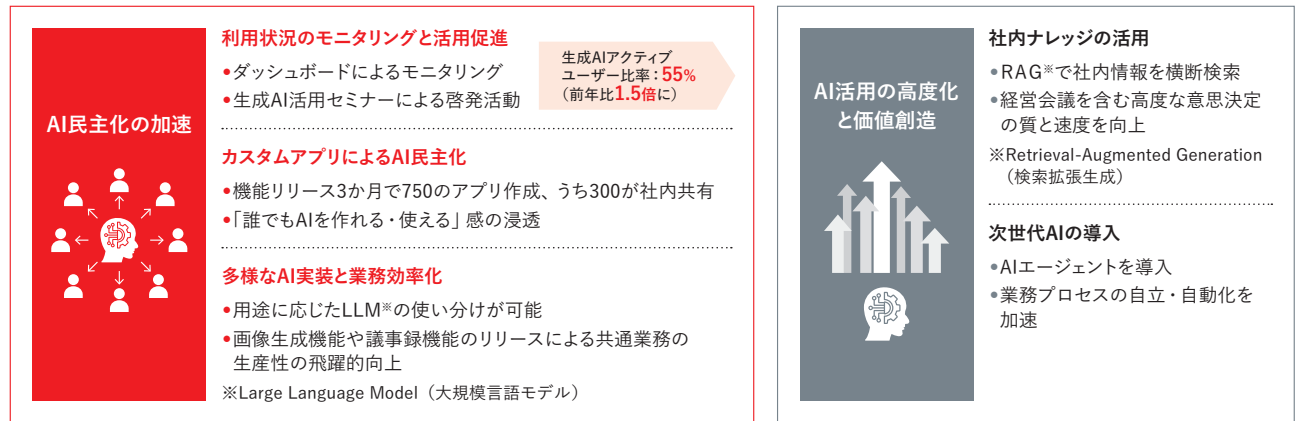


AIネイティブカンパニーへ：AI活用による変革 ～個人活用から組織活用へ～

生成AIの急速な進化は、私たちの業務のあり方を根本から変えようとしています。当社では、人とAIが協働する“AIネイティブ”な働き方の実現を目指し、DXビジョンのもと、生成AIの活用を「個人利用から組織的利活用への変革」へと推し進めています。この変革を加速させるため、当社は「AI民主化」と「AI活用の高度化」の2つの側面からアプローチしています。

「AI民主化の加速」では、ダッシュボードによる利用状況のモニタリングや生成AIRテラシー教育・ハンズオン研修など活用セミナーの啓発活動を実施。さらに、機能リリース3か月で750ものカスタムアプリが作成されるなど、「誰でもAIアプリを作れる・使える」環境の整備を進めています。

一方、「AI活用の高度化と価値創造」では、RAG（検索拡張生成）を用いて社内情報を横断検索し、経営会議を含む意思決定の質と速度を向上。さらに、AIエージェントの導入により、業務プロセスの自立・自動化を加速させ、組織としての効率化、利益向上、成長といった具体的な価値創造の成果につなげていきます。



新ビジネスモデル創出の取り組み

当社はDXによる新たなビジネスモデル創出に向け、コア技術と蓄積データを活用したデータマネタイゼーションを推進しています。

DX戦略3.0第1弾「Biondo®」(2024年7月公開)は利用者拡大とサービス改善を実施。あわせて、2023年に立ち上げた「農業でつながろう。」をテーマとする農業関連の総合情報サービス「つなあく」は、農業経営支援のデジタル・プラットフォームとして展開し、2024年7月に会員向け新サービス「つなあくポイント」を開始。さらに、青果市況情報アプリ「YAQYASAN」は機能強化を進め、2025年10月に有料サービスを開始。第2弾の準備と第3弾以降の検討、AIを用いた新規事業探索も進め、中期経営計画で掲げるデジタルプロダクト5件のローンチに向け、取り組みを加速しています。

